

幼稚園は一代か

青柳美智代

幼稚園令が公布されたのは大正十五年である。私は自分の幼稚園教育の経歴でこの幼稚園令の公布には忘れ得ない鮮明な記憶をもっている。

私が幼稚園の事業にはじめて関係したが、ちょうどこの幼稚園令公布の大正十五年であること、実に日本の幼稚園界という全国的な大きな集りにはじめて接し、力づけられたのもこの幼稚園令公布を記念して開催された、全国幼稚園教育関係者大会に偶然出席したからである。

当時は行政的にも、また幼稚園界としても無組織時代であった。幼稚園相互の連絡もなく、また上からの指導育成というよう

なことも全くなかったと思う。そこでどのような組織から、どのような手続きで幼稚園教育関係者大会の案内が来たのかははっきりしない。おそらく当時の幼稚園界の重鎮といわれる少数の方々の非公式的な話し合い程度でこうした会合が計画され開催されていたものであろう。

とにかく、当時としては最高の法である勅令で、しかもはじめて幼稚園令という独立立法が公布されたのだからそれを記念しての大会であったわけだが、はずかしいながら私はそうした予備知識も余りなしにその記念大会に出席したものだ。

会場には一千名を超える出席者があつた

ように思う。全国的には未だ組織がなく孤立無援孤児的存在のように考えていた幼稚園であるにかかわらず全国大会ともなれば、どこからともなくこのように会場にあふれる同業同志のあるのに先ずおどろいてしまった。しかも、幼稚園令公布という一点に参加者一同が喜び合い、会場全体が熱気をおびているような雰囲気だった。

私は知人もなし、また幼稚園令公布の意義もそれほど理解していなかったので会場にあふれる熱気に圧倒される思いではるか後方に着席して大会の進行をみまもっていたことを覚えていゝ。会場の雰囲気からはおよそ異端者である自分を感じながらも、一面幼稚園という全く片すみのささやかな教育事業であつても、全国ともなればこのように同業同志のいることをたいそう心強く思った次第だった。

大会では当時の幼稚園界の有名人が次々と挨拶や喜びを述べられ表彰なども行なわれていた。その大会で印象に残っているのは、故倉橋惣三先生と現在大妻女子大学教

授清水福郎先生の姿である。その他の諸先生の当日の印象は残念ながらどうも茫々として定かでない。

この両先生の印象だけが鮮明なのはやはり、その後の御像が切れずに続いてきたからと思う。倉橋先生は御他界まで公私共に御教導をいただいたこと、また清水福郎先生は同郷の關係で今以って御昵懇に願っているためであろうか。

倉橋先生は幼稚園の黎明期から自ら進んでその教育を選ばれ更に一筋に幼稚園の進歩と向上に生涯を捧げられた先覚者であることは御承知の通りである。また、清水福郎先生は幼稚園令公布当時、文部省幼稚園担当事務官として直接立法的な努力をされたものである。

さて、遠い不確かな記憶を辿って幼稚園令公布前後のことを述べたが私の幼稚園経歴から幼稚園界を顧みてどうも幼稚園はその個々の寿年が短いように思うことを卒直に述べてみたいと思う。

それは幼稚園は一代かということであ

る。一代限りなど縁起でもないとお叱りを受けるかと思うが、ここにいう一代限りとは、主として幼稚園の名声、名門というような面である。どうも幼稚園の名声、名門は二代続かないように思う。国公立の場合には個人の意志で設置経営されるものでないから論外だが、私立の場合は、二代続かないとすれば誠に淋しいといわなければならぬ。なぜなら私立は、設置者個人の設立精神がある。更にその精神の伝承が生命である。私立はそのために存在し、また献身努力がなされているものだ。

かつて、その世代に幼稚園界を指導された幾人かの先覚者がおられた。すぐれた教育理論にまた実践に幼稚園界に明星のように輝き大活躍をされた方々を知っている。その幼稚園は幼稚園界の名門として全国から聖地を訪れる巡礼のように參觀者が集まり、原參觀者名簿に記帖し卓越した教育観を拝聴し、遊具のすみずみまで行き届いている教育者に感銘を深くしたものだ。

しかし、そうした名門著名な幼稚園が不

幸な戦争という激動を経たとはいえ簡単に廃絶してしまい、その跡地に工場やアパートが建ってしまったいたりする様をみてなんとも淋しく思う。また、その名門著名を支えていた一人を失うと全く光芒を失ってしまう事例を痛切にみせられてきた。誠に無常であり変遷のはげしさを思う。

他の私立学校の分野には、そうした事例は全くないわけではないが、極く稀れではなからうか。私学の名門校著名校は幼稚園のように新陳代謝しないことはたしかである。

その原因は名門著名を継承する優秀な人材を自由に育成し得ないところにある。しかし、幼稚園だけが一代限りにはかないものであるとすれば、誠にさびしいことだと思ふ。今はなき幾人かの幼稚園界の指導者、また、令名高かった幼稚園の数々を偲びながら、やはり、幼稚園も私学として絶ゆることなく、止まることなく栄えゆくよう考えたいものだと思う。(宝仙学園)